

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【家庭科】

1. 対象（実施を想定する学校・児童生徒の実態の概要）

- ・ 1年生 10名（男子6名、女子4名）
- ・ 素直でどんな学習にも一生懸命に取り組む生徒が多い。
- ・ 学習していることを自分の生活と比べながら考え取り組む生徒、自分なりにメモをとりながら取り組む生徒、実際理解できていなくても「分かりました。」という生徒、10分程度で集中が切れ学習とは異なる発言をし始めてしまう生徒など実態差がある。
- ・ 短時間自分で考える時間を設けた後話し合い活動をしたり、実践的な活動を取り入れたりすることで、どの生徒も自分事として捉え、最後まで意欲的に取り組むことができるようになってきた。
- ・ 金銭の理解、計算はある程度できている生徒が多い一方で、一人あるいは友達と買い物に行く（出掛ける）機会が無い生徒が多い。
- ・ 保護者と一緒に買い物に行く生徒が多く、お菓子やジュースなど安価な物であっても一人で買いに行ったことが無い生徒もいる。
- ・ お小遣い制の生徒は少なく、欲しい物は適宜保護者に相談して買ってもらっていることが多い。
- ・ お年玉を「自分のお金」として管理し、好きな物を買っている生徒がいる。
- ・ 将来、一人暮らしや結婚をして家族と暮らしたいと思っている生徒が多いが、それに係る費用について考え、イメージを持っている生徒はいない。

2. 単元名 「消費生活 I 文字」（全4回）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	・ 収入や支出について知り、金銭をより良く使うために工夫することや気を付けることが分かる。
思考力、判断力、表現力等	・ 金銭の節約方法や買い物の際に工夫できることを考え、仲間に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	・ 調べ学習やグループワークに積極的に取り組み、身近な消費生活について自分ができる改善・向上についてまとめることができる。

4. 本時の目標

上手なお金の使い方について考え、買い物の際に工夫できることや気を付けることがあることに気付くことができる。

5. 授業展開【 本時 】

解決したい課題や問い
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「上手にお金を使う」ために、どんなことができますか？ 工夫できることや気を付けることを考えましょう。

考えるための材料		
1 消費生活講座ワークシート（前時の講座）	2 「こんなときどうする？」カード（所持金5千円での模擬買い物）	3 キャッシュレス決済模擬買い物

想定される活動		
・前時で学んだことを思い出す。	・所持金内で買えるよう、買う物を選択する ・必要な物とあるといい物の区別	・欲しいものは買ってしまい、自分が予想していたより多額の請求がくる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

- ・グループ形態：2グループに分かれて行う（1グループ5名）
- ・話し合い：10分、共有5分
- ・留意事項：2回の模擬買い物をとおして気付いたことを基に話し合う
- ・「絶対に必要な物とあるといい（欲しい）物がある」「必要なものは買わないといけない」→「必要な物でも、買う場所とか商品の選び方で安くできる」
- ・「持っているお金を確認しながら買わないといけない」「もしかしたら急にお金が必要になることもあるかもしれない」→「持っているお金を全部使わない方がいい」
- ・「キャッシュレスだと買い過ぎちゃう」→「キャッシュレスは楽だけど、どれくらい使ったか分かりにくい」→「欲しい物もちゃんと考えて買わないといけない」「今日は〇円まで使っていいとか決めたら良いかも」
- ・「高価なものは我慢することも必要」→「お金を貯めて、貯まったら買えばいいと思う」

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・「よく考えて買う物を決める」
- ・「持っているお金をしっかり確認しておく」
- ・「お小遣い帳（家計簿）をつける」
- ・「キャッシュレス決済はあまり使わない方が良い」
- ・「コンビニよりスーパーで買う」
- ・「大容量の物やまとめ買いで安くなる方を選ぶ」
- ・「お金があっても高価な（欲しい）物はすぐ買わない」
- ・「一人暮らしをしたら実際どれくらい自由に使えるお金があるんだろう。」
- ・「上手に使うために（自分が欲しい物を買うために）、もっと節約できることや工夫できることってあるのかな。」